

宇田栗園 號を 儒者、歌人。文政十年一月二十五日山城國生れ、明治二十四年四月十七日没（八三〇—九〇二）。謹淵、字士潛、通稱健齋。別號心遠居士。醫家の子に生れ、醫學の他儒學を修めた。尊皇の志士と交はり國事を奔走。岩倉具視邸に寄寓し、戊辰役には東山道鎮撫總督岩倉具定の參謀として従軍。のち留守判官、京都府權入參事等歴任。和歌を能くし、歌會對柳會を主宰。女子教育家三輪田眞佐子の父。

著書に『栗園花』（明治三十七年四月十九日京都・宇田豊四郎編輯）、

『辨觀字彙稿』（明治四十四年四月十五日宇田氏藏版、中野大郎編輯）

その他、對柳會歌集『對柳歌集』（明治四十四年四月二十日京都・荒木

正齊編輯）あり。